

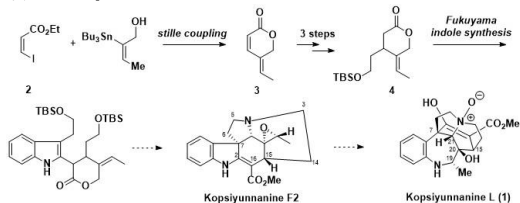
28PA-am010S

新規 Kopsia アルカロイド Kopsiyunnanine L の合成経路にヒントを得た全合成研究

○福田 勇斗¹, 小暮 紀行¹, 北島 満里子¹, 高山 廣光¹ (¹千葉大院薬)

[目的] 当研究室にて単離された新規 *Kopsia* アルカロイド Kopsiyunnanine L(**1**)¹⁾ は、特異な 2,3,4,5-Tetrahydro-1*H*-benzazepine 骨格をもつものの、モノテルペノイド インドールアルカロイドの範疇に入る。本化合物の連続する 5 つの不斉中心は、合成の観点から推定されているが、その絶対立体配置の決定には至っていない。そこで本化合物の絶対立体配置の決定を目的として不斉全合成研究に着手した。

[方法] Ethylacrylate (**2**) を出発原料とし、Stille coupling により lactone **3** を得た。その後、3 工程を経て TBS 体 **4** へ誘導した。福山らの手法²⁾を用いてインドール骨格を構築し、その後仮想合成前駆体の Kopsiyunnanine F2 を経て、標的化合物を合成する予定である。



1) M. Kitajima *et al.*, *Tetrahedron*, **2016**, 72 (42), 6692

2) T. Fukuyama *et al.*, *Org. Lett.*, **2007**, 9 (23), 4737